

2020年  
No.89  
1月1日発行

## 国際こだいら



KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION (KIFA)



- こだいらグリーンロードを歩こう
- 多文化理解講座 in English  
スリランカ編・アメリカ編 ほか

## 2019 こだいら国際交流フェスティバル 11月17日(日) 学園西町地域センター

雲一つない晴天の暖かな日、今年も国際交流フェスティバルが開催され、学園西町地域センターに多くの人々が訪れました。11時の開始と同時に、1階集会室からはインドネシアの竹でできた楽器『アンクルン』で演奏した懐かしい曲が聞こえてきました。入口ロビーでは、水彩絵具で国旗のフェイスペインティングをしてもらっている子どもたちが喜んでしゃいでいます。その横では災害時対応チームによるクイズ、行政書士によるビザの無料相談会、さらに奥ではポッチャの競技が行われ、時折ワッと大きな歓声があがります。

KIFAの活動写真が貼られた階段を2階へあがると、広い和室では折り紙・似顔絵・切り絵・アフリカの楽器演奏コーナーなどがありました。通路では、朝から作られてまだ温かいゆで饅頭や、KORYU SALONサークル

による和紙などを使った手作りの作品が売られ、奥へ進むと茶道体験、着物を着た日本人が和室へ招いています。

3階では11カ国語の会話が実際に体験できる『世界ことば発見』、そして隣の生け花体験では、草花の香りに包まれて多くの外国人が自分の作品を作っていました。

外国人の方を対象にお得な『日本文化体験おもてなしプログラム』もあります。生け花体験・茶道体験・ゆで饅頭・お土産の和紙しおりの4つセットで400円、数量限定で販売され、午後の早々に完売していました。

中庭ではシンガポール料理やケバブなどが売られ、美味しそうな香りが漂い、午後になると、世界の歌の弾き語りにあわせて、参加者が口ずさんでいました。

子どもから大人までさまざまな国の人が、ボランティアも含め、盛り沢山のプログラムで賑わった1日でした。



KORYU SALONの  
手作り小物たち



三ツ矢竹輝さんによる世界の歌



わいわい賑やかな入口ロビー



ぽかぽか陽気の中  
嘉悦大学のヨーヨー釣り



行政書士によるビザ相談会



スパイシーな香りが漂う  
中庭の屋台



お茶の点て方を教えて  
もらえる茶道体験



生け花体験でオリジナルの作品作り



笑いの絶えない  
フェイス  
ペインティング



ねらいを定めて「エイッ！」  
子どもにも人気のポッチャ



## 国際交流員による スピーチ

11月17日(日)

こだいら国際交流フェスティバルで午後2時から、ストールアンダーウッド・サラさんによるスピーチがありました。サラさんは今年の8月から、小平市産業振興課で国際交流員<sup>(注)</sup>として観光の仕事をしています。出身はアメリカ合衆国オレゴン州で、ポートランドの紹介を中心にお話しされました。

州最大の都市ポートランドは、アメリカ人の住みたい都市No.1に選ばれているそうです。アメリカ北西部に位置し、緯度が北海道に近いことから、札幌市と姉妹都市になっています。人気があると聞くと気候がよさそうですが、1年のうち8カ月くらいは曇りや雨の日で、市民は太陽に飢えているとのことでした。太陽が顔を出すと、屋外に出てビールで乾杯する様子がビデオで紹介されました。

しかし、なぜポートランドはそんなに人気があるのでしょうか。そのポイントは、若者文化と環境に優しい都市であることが大きいようです。周囲を気にせず行動する、流行を追わずローカルを大切に、古いものを新しい魅力に変えるなどの若いパワーにあふ

れ、そのような価値観の自由さに惹かれ移住してくる人が多いようです。リサイクルが徹底しており、スーパーではマイバッグが利用され、コーヒー店でもマイカップを持参するそうです。また、共同利用ガーデンがあり、生ごみをたい肥にして花や野菜などを作っているという話もありました。地球にやさしく、健康的な暮らしをするという意識が広がっているようです。

ポートランドは、IT企業も進出しているようですが、地ビールの生産も盛んです。都市開発に当たっては住民の要望が強く、その声を聞くためのミーティングが開催されています。市民は既存の枠にとらわれず新しいことをやろうという意識が高く、活力のある都市であることが感じられます。

サラさんは大学で日本語と国際関係を専攻しました。幼い頃に日本人のピアノの先生に折り紙などを教えてもらい、日本への関心を持ったそうです。小平は畑が多く、まちと農業のつながりが感じられるとのことでした。サラさんの経験を活かして、小平の観光まちづくりをより盛り上げてほしいと思います。(注)(一財)自治体国際化協会によるJETプログラムを活用して、小平市が任用している。



## 小平グリーンロードを歩こう!

10月6日(日)

初秋の涼しさを感じる日曜日の朝10時、一行は小平駅から出発しました。参加者は、中国、台湾、イタリア、デンマーク、ドイツ、オランダ、ベルギー、ポルトガル、アメリカ、日本出身の20名です。ほとんどが最近来日した交換留学生で、それぞれの大学の修士課程で勉学中です。

交流イベントグループのボランティアが、ツアーガイドのようにKIFAの旗を掲げて引率し、ゆっくりペースで進んでいきます。緑あふれる散歩道に、真っ赤な蔓殊沙華(彼岸花)やふさふさしたケイトウを見つけ、写真を撮るために立ち止まることもしばしば。歴史ある古民家が集まる『小平ふるさと村』の前を通り、竹やぶのある『たけのこ公園』では、竹の



子の採れる時期や採り方が話題になっていました。

各々お喋りに花を咲かせ、趣味のカンフーや太極拳の技

を披露してくれる男性もいます。日本好きのイタリア人男性が、「故郷へ帰っても騒がしいので落ち着かず、早く日本に戻りたくなる。」と話す心境には驚かされました。

花小金井駅を過ぎ、『馬の背』と呼ばれる土手を上る頃には空があやしくなり、傘をさしてのウォーキングとなりました。『都立小金井公園』では、園内にある西東京市と小平市と小金井市の境界線や、石神井川の上端の説明があり、立派な桜の大木に皆見入っていました。『江戸東京たてもの園』が入園無料になっていたことから、園内の観覧ついでに昼食をとることになりました。女性参加者の皆さんは、園内を歩く外国人の着物姿に大変興味を惹かれ、自らも是非着てみたい様子でした。

昼過ぎには暖かい日差しが戻ってきましたが、予定外の寄り道で時間を費やしてしまったため、蒸気機関車のある公園出口からは一転、早歩きに変わります。急ぎ足で上水沿いを歩き、終盤かなりハードでしたが、『こもれびの足湯』16時閉園の間際に無事到着。早く着いた人は30分ほど足湯で疲れを癒すことができました。

2万歩を超えるウォーキングで小平のよさを味わい、新たな友人もでき、日本の滞在生活がよりよいものになれば幸いです。

## 多文化理解講座 in English 全3回

学園西町地域センター



毎年恒例の人気講座、「多文化理解講座 in English」が開講されました。今年度は、スリランカ・ガーナ・アメリカ出身の講師が、英語で自国を紹介しました。

### スリランカ編 10月5日(土)



講師は、スリランカ共和国出身のティリーナ・ヒーナッティガラさんです。ティリーナさんは大学卒業後、ポルトガルとオランダで生活し、2018年11月に来日しました。国立天文台を経て、現在東京工業大学の地球生命研究所に勤務しており、50か国以上の国々を訪れたことがあるそうです。

講座では、スリランカの地理や文化、歴史などが幅広く紹介されました。料理については、隣国のインドではマサラという色々なスパイスが混ざったものがありますが、スリランカでは主に26種類ものスパイスを個々に入れて調理するため、2～3時間もかかります。ティリーナさんは、料理上手なお父さんから料理を習っていたので、日本でも時間のある土曜日に、友人や同僚を家に招いて料理をふるまうそうです。

また日本でもお馴染みのセイロンティーですが、スリランカでは午後4時から6時にティータイムがあり、温かいお茶を職場の人や家族といただく習慣を大切にし

### これからの行事予定

◎餅つき・新年交流会	1月11日(土)
◎外国人対象「小学校生活ガイダンス」	2月1日(土)
◎こだいら市民駅伝大会	2月2日(日)
◎世界の料理(フィリピン)	2月27日(木)

※詳しくは、KIFAミニレターまたはHPをご覧ください。

ています。紅茶にも様々な種類がありますが、高価なお茶は収穫量が少ない、または加工するのに手間がかかるという理由から高いそうです。決して味が良いからではない、という説明にため息が聞こえました。

受講者は20人を超えました。質問タイムは日本語でもOKでしたが、皆英語で積極的に質問して話題が尽きない様子から、スリランカへの関心の高さがうかがわれました。



### アメリカ編 10月19日(土)



今回の講師であるリウ・ケンジさんは、父親が台湾人、母親が日本人で、カリフォルニア州で生まれ育ち、英語・中国語・日本語ができるトリリンガルです。日本に来て4年、ITの仕事をしています。

前半はアメリカ合衆国についての紹介です。徹底して自由な国であるアメリカについて、信教・言論・報道・請願・集会・銃を持つ権利、という『6つの自由』の視点からそれぞれお話がありました。特に銃を持つ権利については、かつてイギリスから独立した経緯も含めて難しい問題として語られました。

後半は日本のITの将来についてです。普段の多文化理解講座は終始英語で行われていますが、今回後半から

は専門的な内容のため、ケンジさんが途中で日本語に切り替えて話しました。『ボット(人の真似をするシステム)』を例にあげ、ITが遅れている日本は不正業者の標的になりやすい等、IT専門のケンジさんだから気付く視点で、日本の現状の課題、そして将来への提案について熱く語られました。

今後のIT普及のためには英語はもちろん、新しいものにチャレンジする精神や1人1人の向上心が大切とのこと。「挑戦するのに年齢は関係なく、まだまだ間に合います！」と明るく流暢に話す姿が印象的でした。



### 編集後記

66号から活動に携わり早8年、今までの機関紙に目を通せば、当時の取材や原稿作りの様子が、目に浮かびます。紙を媒体にした情報手段が減少する一方で、紙面に残す『国際こだいら』の役割は、大きいものがあります。5,000字余りの文字数でありながらも、より内容の濃い4頁の紙面を埋めていくこと。これを永遠の課題として、今後も取り組んでいきたいと思えます。(Y.Y)



発行日 2020年1月1日  
発行 小平市国際交流協会  
編集 機関紙グループ

〒187-0045  
小平市学園西町2-12-22  
学園西町地域センター 3階  
TEL. 042-342-4488  
FAX. 042-347-3003

